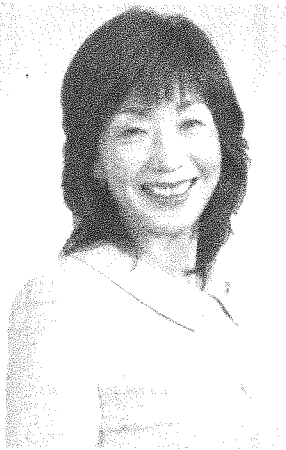


運送業界の健康支援を生きがいに

152 日本初 ドライバー特化の健診結果



1月末、全ト協の受託事業である「運輸ヘルスケアナビシステム」実証実験の報告書が完成しました。30社・2179人の健診結果(S.A.S検査結果含む)の集計・分析や、実証実験実施後のアンケート調査の結果等を約100枚のパワーポイントでまとめ、私なりのコメントや考察を付記し、トラック業界における『安全と健康』のあり方を提案しています。本報告書は、日本初のトラックドライバーに特化した健診結果の集計ですが、すごいデータが集約できたと自負しています。その中でも筆者が特に重要だと捉えているものが次の2点です。

◎ドライバーとドライバー以外の健診結果比較

まず1点は、ドライバーと

《全日本トラック協会 SAS検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク(OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

ドライバー以外の健診結果を通しての健康度比較です。ここではドライバーの、「死の四重奏」と言われる、肥満・血圧・脂質異常・血糖値の各所見(正常値から外れる人)に該当する人の割合が、ドライバー以外と比べて非常に多いことが鮮明に浮上しました。「不規則勤務で労働時間が長いドライバーの健康状態は、あまり良くない」という懸念はあったものの、ドライバーに限ったデータがなく、エビデンスとして不足していました。こうして比較すると、働き方や生活習慣が健康度を低下させているという推察が新たにリアル感を持ち、「健

康格差」を出さないためのサポートが求められているのではと痛感しました。

◎重症者を見過ぎさないで
2点目は、「健診結果の落とし穴」に気づいたことです。それは、健診時の問診票に「受診中」と記載している人に、重症者やハイリスク者が非常に多いということです。「受診中」であるにも関わらず、血圧が200以上、血糖値が400以上、さらにこれらが重複しているなどというのは、明らかにコントロール不足であることを示しています。つまり、「このような体調で運転しているものか」「病気や服用した薬等で正常な運転ができない恐れがある状態での運転を禁止している『道路交通法』に触れるのでは」と懸念することになりました。

「受診中」という記載で、今まで「誰からも、どこからも」関与されなかった多くのハイリスク者。本人の供述だけに終始しないで、踏み込んだ形でコミュニケーションをとって下さい。

(次回は3月12日号に掲載)